奈良・西大寺旧境内

1　所在地　奈良市西大寺北町

2　調査期間　第一七次調査　二〇〇四年（平16）四月～五月

3　発掘機関　奈良市教育委員会

4　調査担当者　久保邦江

5　遺跡の種類　都城跡・寺院跡

6　遺跡の年代　奈良時代～室町時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、平城京跡右京一条三坊、西大寺旧境内にあり、『西大寺資財流記帳』にある弥勒金堂院に推定される位置である。また、寺域の北を限る一条北大路に面しており、調査地北端にその南側溝が想定された。

（奈　良）

検出した遺構は奈良時代後半の瓦溜まり一カ所、平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての整地層、室町時代の溝二条、掘立柱建物一棟、塀三条、井戸四基、土坑二基である。室町時代の二条の溝からは室町時代の土器・瓦のほかに、奈良時代の土器・瓦も出土し、位置も考え合わせると、一条北大路南側溝と築地の雨落溝を踏襲している可能性が考えられる。

木簡は室町時代の井戸から一点出土した。井戸は枠がなく、平面は円形で直径一・二m、検出面からの深さは〇・九五mである。共伴遺物には、丸瓦・平瓦、瓦質土器擂鉢・甕、陶器甕・壺、土師器羽釜、凝灰岩の破片、炭化物がある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　115×20×3　061

「[バン ウン]　[アク ブ カ]。□□□」

長方形の材の一端を山形にし、中央からやや上の位置に穿孔がある。木簡の形態と梵字が書かれていることから、笹塔婆であると考えられる。

なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

（久保邦江）